

納言各一人、宣命の使一人、中納言を用ふ、典儀一人、少納言を用ふ、これらは皆擬侍從のさだめ文にのする物なり、又禮服の公卿の人數は、職事一紙に在るして大臣にくだす、大臣外記に仰て、その人々につげめぐらさしむ、此外大將代、褰帳の女王、典侍、威儀の命婦などいふ事ども兼てより定め仰らるゝ也、

〔扶桑略記二十五〕裏書、延長八年十一月廿一日、天皇於大極殿即位、三品貞眞親王、中納言恒佐、參議公賴、藤當幹、平時望等著禮服爲外辨、申刻事了、

〔天祚禮祀職掌錄〕光孝天皇以前、上古依無委細所見、略不注之、

登壇即位事略

村上天皇 天慶九年四月廿八日即位

奉行官方左中辨大江朝綱朝臣  
藏人方頭修理大夫平隨時朝臣

内辨 右大臣左近大將藤原朝臣實賴公  
清愷公

外辨 中納言藤原元方卿 參議藤原師氏朝臣、藤原師尹朝臣

左侍從 三品中務卿重明親王 刑部卿從四位上源清遠 少納言從五位下橘實利

右侍從 四品行明親王 右京大夫從四位下源寬信 少納言代從五位下藤原村蔭

典儀 少納言從五位上源泉

大將代 左大和守忠幹朝臣 右内膳正有融

褰帳 左麗子女王重明親  
王女 右馨子女王有明親  
王女

〔日本紀略八〕永觀二年九月十七日甲子、被定來月十日御即位、擬侍從等、

〔本朝世紀〕治曆四年七月廿一日辛卯、天皇三於太政官廳有御即位事、御出之□□□□□□少

納言實宗、俄所勞、仍右少將道時奏鈴、右大臣爲内辨、阿波守高階章行朝臣、越後守長定朝臣爲左右